

すべて植物由来、県産材料達成

長浜 水草肥料「湖の恵」誕生5年

琵琶湖の景観悪化、悪臭発生、船舶航行の妨げと、「厄介もの」の水草を発酵させた明豊建設（長浜市）の有機特殊肥料「湖の恵」が誕生から五年を経て、植物由来、県産材料ともに100%を達成した。水草を廃棄物でなく、資源ととら

えた「ビジネスモデルとして発信。水草産業に他社の参入も期待している。

琵琶湖では水草が増え、県が年平均六千トンの量をさらっている。さらに、陸揚げ後の処分方法も悩みの種になっている。明豊建設は二〇一八年から有機特殊

肥料の製造に着手。その年の十月、世界湖沼会議で披露した。

現在は約二百トンの水草を県から買い取り、伊吹山系の間伐材チップ、長浜市の米ぬか、酒かす、県北部の山林で採取した土壌菌を混ぜて発酵させる。においがなく、土をふかふかにして、栄養分も豊富な肥料約二十トができる。袋詰めは、地元の障害者就労支援事業所に託している。

誕生時は鶏ふんなど動物由来や県外産の材料も使っていたが、二二年仕込み分から全ての材料を植物由来で県産にすることに成功した。本年度、県と長浜市のふるさと納税返礼品に登録された。

長浜商工会議所で湖の恵



「湖の恵」を紹介する鈴川さん＝長浜市高田町の長浜商工会議所で

の発表があり、同社アグリサイエンス部の鈴川一行さんが室内タイプ、屋内、屋外兼用タイプ、屋外タイプ、発酵、乾燥の際に出る水分を使った植物活力液などの商品を紹介した。大都

市圏で人気が高いという。農業者向けの大容量タイプもあり、土壌改良の実績も多い。鈴川さんは「水草産業が盛んになれば、琵琶湖の問題を一つ解決できる」と話した。（松本芳孝）